

ユーフォルビア

Euphorbia

トウダイグサ科 / Euphorbiaceae

2,000種を超える圧倒的な多様性。球形・柱状・塊根と、同じ属とは思えない個性豊かなフォルムが揃う、多肉植物の中でも特別な存在です。

基本データ

🌱 成長期	夏型（多肉系の多くは春～秋生育、冬休眠）
🌡️ 耐寒温度	5～10℃以上が管理目安（種差が非常に大きい）
☀️ 日照	日なた（真夏は一部遮光、順化が必要）
📅 播種適期	3～6月（多肉系夏型の場合）
🕒 発芽日数	数日～2週間
📍 主原産地	アフリカ・マダガスカル・アメリカ大陸ほか全世界

📌 概要・魅力

ユーフォルビア（Euphorbia）は、トウダイグサ科ユーフォルビア属に分類される植物の総称です。属名は1753年にカール・リンネが命名し、Kew・POWO（英国王立植物園の世界植物データベース）には約2,077種が受取種として登録されています。被子植物の中でも最大規模の属のひとつで、球形・多稜柱状・塊根（コーデックス）型・木本など形態は極めて多様です。

アフリカ・マダガスカル・アメリカ大陸・ユーラシアと地球全域に分布しており、多肉化した種の多くは南部・東部アフリカとマダガスカルに自生しています。サボテン科（Cactaceae）が占めるアメリカ大陸の乾燥ニッチを、他の大陸では多肉ユーフォルビアが担っていることから、両者は「収斂進化」の代表例としても知られています。

代表的な多肉種

- オベサ（E. obesa） — 野球ボール型の球体が愛らしい人気種。南アフリカ・カルー地方の固有種で、実生人気が高い。
- 紅彩閣（E. enopla） — 赤いトゲが映える多稜の柱状種。
- 花キリン（E. milii） — マダガスカル原産。赤・ピンク・白の花苞が長期間楽しめる。
- 峨眉山（E. lactea 系交配種） — うねるような稜と独特のフォルムが人気。
- 飛竜（E. platyclada） — 枯れ木のような塊根を持つコーデックス種。

ユーフォルビアが愛される理由

- 圧倒的な多様性と造形美 — 球形・多稜柱・塊根などサボテンを思わせる独特の姿。同じ属でも種ごとに全く異なる表情を持ちます。
- 丈夫で乾燥に強い — 多肉系は全般に管理しやすく、水やりのサイクルを覚えれば初心者にも育てやすい植物です。

- 実生の面白さ — 種から少しずつ個性的なフォルムが育っていく過程が楽しめます。オベサは実生で人気が高くなる種です。
- 「サボテンに似た別の植物」という希少感 — 多肉系ユーフォルビアはサボテンに似ていますが全くの別属で、コレクション性が高い点も魅力です。

重要な安全情報：ユーフォルビア属の全種は、傷つけると切り口から白い乳液（ラテックス）を分泌します。この乳液には有毒成分（ジテルペンエステル類）が含まれており、皮膚に触れると発赤・水疱・炎症、目に入ると角膜・結膜への化学的傷害（重篤な場合は視力障害）、誤食は口腔・消化管粘膜への炎症を引き起こすおそれがあります。種によって毒性の強度に差はありますが、属の全種に注意が必要です。剪定・植替えなど作業の際は必ずゴム手袋を着用し、目・口を触らないようにしてください。子どもやペットの届かない場所で管理することも大切です。

☀️ 置き場所

多肉系ユーフォルビアは日当たりと風通しのよい場所を好みます。光が不足すると徒長（間延び）し、本来の締まったフォルムが崩れてしまいます。ただし、置き場所の判断は栽培する種によって異なる場合があるため、お手元の種の情報をあわせてご確認ください。

春～秋（生育期）

戸外の日当たりのよい場所が基本です。多くの種は強い直射日光を好みますが、室内管理から急に屋外の強光に移すと葉焼けを起こしやすいため、1～2週間かけて徐々に慣らす「光順化」が必要です。日本の真夏（35℃を超える強光・西日）は、種によっては20～30%程度の遮光や半日陰への移動が無難です。

- 梅雨～夏の雨ざらしは避ける — 過湿が根腐れの最大のリスクです。軒下や雨が当たらない場所で管理しましょう。
- 風通しを確保する — 蒸れを防ぎ、病害虫の発生も抑えます。

冬（休眠期）

多肉系の多くは最低気温が5～10℃を下回る前に室内へ取り込むのが安全な管理の目安です（種により耐寒温度に幅があります。詳しくは栽培する種の情報を確認してください）。室内では明るい窓辺に置きます。

- エアコン・暖房器具の直風は乾燥しすぎるため避けてください。
- 室内は通気が乏しくカイガラムシが発生しやすいため、定期的な観察が必要です。

乾燥状態の株は低温耐性が上がります。逆に用土が湿った状態での低温は根腐れ・凍害のリスクが増えるため、冬の水やりをしっかり控えることが越冬成功の鍵です。

水やり

ユーフォルビア栽培で最も多い失敗が水やりすぎ（過湿）による根腐れです。多くの多肉系ユーフォルビアは根が比較的細く、過水に弱い傾向があります。「乾燥と灌水のメリハリ」が健康に育てる最大のコツです。

生育期（春～秋）

「用土が完全に乾いてから、鉢底から流れ出るまでたっぷり与える」のが基本です。少量をちょこちょこ与えるのではなく、しっかり乾かしてからたっぷり、を繰り返します。

- 春・秋は週1回前後を目安に。
- 真夏は種によって成長が鈍化する場合があります、2週間に1回程度に控えめにするのが無難です。

休眠期（冬・おおむね10月～3月頃）

基本は断水、または月1～2回のごく軽い灌水にとどめます。完全断水か軽い水やりかは種・株のサイズ・室温によって異なります。オベサ等は月1～2回ごく少量与えると細根が守られるとする栽培者情報があります。

肥料について

やせた乾燥地の植物なので、肥料は控えめで十分です。与えすぎは徒長の原因になります。生育期に薄めた液肥を月1～2回程度が目安です。

水やりのタイミングに迷ったら「もう一日待つ」くらいが安全です。乾燥に強い植物なので、与えすぎより控えめのほうが失敗が少なくなります。

用土・植替え

ユーフォルビアには排水性を最優先した用土が向いています。市販の多肉植物・サボテン用培養土を使うのが手軽ですが、排水性をさらに高めるためにパーライトや軽石を追加するとより安心です。

用土の配合例

- シンプルな配合：市販の多肉植物・サボテン用培養土 + パーライトまたは軽石（排水性強化）を1～2割追加
- 自分で配合する場合の例：鹿沼土小粒2：赤玉土小粒2：ピートモス2：川砂2：くん炭2
- 別の配合例：硬質赤玉土・硬質鹿沼土・パーライトの混合も一般的

いずれも「水が長くとどまらない」「鉢底から素直に流れ出る」用土を目標にしてください。

植替えの時期と頻度

適期は生育期が始まる3～5月です。頻度は根詰まり防止のため2～3年に1回を目安にします。

- 植替え前後は数日～1週間ほど水を控えて、根の傷みからの腐敗を防ぎましょう。

植替え時のラテックスに注意

根や茎が傷つくとラテックスが大量に出ます。必ずゴム手袋と保護眼鏡を着用して作業してください。切り口からのラテックスは新聞紙などで軽く押さえ、自然に止まるのを待ちます（水で洗うと白く固まることがあります）。

植替え後は根の回復を待つため、数日は日陰の風通しのよい場所で管理し、水やりを再開するのはその後に行きましょう。

発芽のさせ方

ユーフォルビアは種から育てる実生も大きな楽しみです。特にオベサ（*E. obesa*）は実生人気が高く、丸い球体が少しずつ育っていく過程が魅力です。ユーフォルビア属は種が極めて多様で発芽特性も種によって異なりますが、以下は多肉系夏型（オベサ等）を中心にした手順です。

播種の適期は気温が安定して20℃以上になる4～5月（春播き）が基本です。冬までに十分な大きさに育てることを目標にすると安心です。

ユーフォルビア種子の特性

ユーフォルビア（特にオベサ）の種子は新鮮うちに播く「採りまき」ほど発芽率が高く、乾燥保存すると発芽力が急

速に低下することが知られています。入手した種子はなるべく早めに播くのがおすすめです。

1. **種子の前処理（吸水・消毒）**：播種前に種子を**12～24時間、水に浸して吸水**させます。**殺菌剤**（ダコニール・オーソサイド等）の希釈液に浸すか、浸水後に**用土表面**に散布すると、**カビ・立ち枯れ**（damping-off）の予防に効果的です。
2. **用土を準備して殺菌する**：新品の清潔な用土（**細粒赤玉土とパーライト・バーミキュライトの混合等**）を用意します。播種前に熱湯消毒または殺菌剤散布でカビのリスクを下げてください。
3. **播種する**：種子が重ならないように、湿らせた用土の表面へバラまきます。
4. **覆土はしないか、砂をごく薄く**：覆土なし、または砂を極薄くかぶせる程度にとどめます。深植えはカビや蒸れ・発芽不良の原因になります。
5. **腰水と密閉で湿度・温度を保つ**：容器をラップや透明の蓋で覆って湿度を高く保ちます。底面から給水する腰水を使い、用土が常に湿った状態を維持します。**発芽適温は20～25℃**（25℃前後を安定して保つのが理想）。強い直射は避け、明るい場所に置きます。
6. **発芽を待つ**：適温・適湿条件では早ければ**2～3日**、多くは**1週間前後**で発芽します（種の鮮度・温度・水分条件で大きく変動します。古い種や低温では遅れることがあります）。
7. **発芽後の管理**：発芽が揃ったら蓋を少しずつずらして徐々に**通気**を増やします。一気に外すと急な乾燥で苗が傷むため段階的に。腰水は当面継続し（苗は乾燥に弱い）、しっかり立ち上がってきたら通常の**水やり**に切り替えます。直射日光は避け、明るい室内または**50%遮光**下で管理します。

オベサの成長は非常にゆっくりで、開花まで5～8年かかります。焦らず、じっくりと付き合うことがオベサ実生の醍醐味です。発芽後の管理期間中もカビや立ち枯れに注意して、数日おきに殺菌剤をスプレーするとトラブルを防ぎやすくなります。

病害虫・トラブル

丈夫なユーフォルビアですが、いくつか気をつけたい病害虫とトラブルがあります。作業時は必ずゴム手袋を着用し、ラテックスに注意しながら対処してください。

害虫

- **カイガラムシ（コナカイガラムシ含む）**：最も注意すべき害虫の一つ。室内管理時や通気不良の環境で発生しやすく、成長点・葉の付け根・稜の凹部に白い綿状の姿で潜みます。歯ブラシ・ピンセットで物理除去したうえ、カイガラムシ専用スプレーやマシン油乳剤で対処します。**除去作業時はラテックスが出るため必ず手袋を着用**してください。

- **ハダニ**：高温乾燥の夏に多発し、稜面が白くかすれる症状が出ます。**殺ダニ剤**でローテーション防除します（同系統の連用は耐性がつきやすいため避けてください）。定期的な葉水・シャワー洗浄も効果的です。
- **アブラムシ**：花キリンなどの開花期に**花序周辺**に発生しやすいです。見つけ次第、殺虫剤散布または物理除去で対処します。
- **ネジラミ（根粉カイガラムシ）**：根に寄生し、鉢をひっくり返すまで気づきにくいのが難点です。**植替え時**に根に白い粉状の虫が付いていたら、根を水洗いして殺虫剤液に浸漬してから植え直します。

よくあるトラブル

- **根腐れ（最重要）**：過湿・通気不良・低温時の**灌水**が主因です。**茎基部**が柔らかくなる・黒変するのがサインです。発見したら即座に抜いて腐敗部分を切除し、乾燥後に清潔な**用土**で植え直します。切断部からラテックスが出るため**手袋・保護眼鏡**を着用して作業してください。
- **徒長（間延び）**：**日照不足**・高温過湿時に起こります。強光・締めた水やりで予防します。
- **葉焼け・高温障害**：室内から急に強光に移したとき、または真夏の西日で発生します。**遮光**（20～30%）と**光順化**で予防しましょう。
- **黒点病・炭疽病などの糸状菌**：高温多湿・**通風不良**で発生します。罹患部を除去し**殺菌剤**（ダコニール・オーソサイド等）を散布、通風確保と梅雨の雨ざらし回避で予防します。

ラテックスによる接触トラブル

剪定・植替え・誤って傷つけた際に乳液が飛散し、皮膚や目に付着することがあります。**皮膚に付いた場合は流水と石鹸で速やかに洗浄**してください（皮膚炎は24～48時間後に症状が現れる場合があります）。**目に入った場合は直ちに流水で10～15分以上洗浄し、症状が続く場合は眼科へ受診**してください。

多くのトラブルは「水のやりすぎ」「風通し不足」「急な強光」が原因です。乾かし気味・風通しよく・光は徐々に、を心がけると失敗がぐっと減ります。作業時のラテックス対策（手袋・保護眼鏡）も忘れずに。

栽培メモ



ユーフォルビアの種子を探す
QRを読み取る / seedstock.jp